【 102 】

氏名	中　島　　晃
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第 1339 号
学位授与の日付	昭和57年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	ハムスターにおけるdiisopropanolnitrosoamine（DIPN）誘発実験膵癌の組織発生について
論文審査委員	教授 小川勝士　教授 佐藤二郎　教授 寺本　滋

学位論文内容の要旨

ヒト膵癌と類似する組織像を呈し，経時的変化の追究が可能な実験膵癌を用いて，膵癌の組織発生を膵組織各部について形態学的，組織学的に検討した。DIPN 500 mg/kg/wをハムスター背部の皮下に注射，実験終了まで投与した群，14週まで投与後無処置とした群に分け経時的に屠殺，摘出膵より30枚の連続切片を作製して光顕的観察に供した。

1) 癌発生母地としての膵の変化はDIPN投与後8－10週を頂点とする浮腫期と12週以降高度になる萎縮，線維化期に分けられ，慢性膵炎様の組織像を呈した。
2) 浮腫期から膵管の増生性変化，萎縮・線維化期からは異型膵管，良性増殖性病変および膵癌の発生をみた。
3) 膵癌は全て腺癌で浸潤癌，微小癌，in situ癌に分けて検討すると，組織学的類似性から浸潤癌はadenomaを前駆病変とする発癌であり，in situ癌は異型膵管からの移行が示唆されたが，微小癌はいかなる型の良性腫瘍性病変とも類似性はなく，連続切片でも周囲との関連性が見い出せず，de nove発癌と思われた。
4) DIPN実験膵癌のinitiationは14週以前におこり，以後promotionを経て癌化するものでDIPNは両作用を有するものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究はdiisopropanolnitrosoamineの誘発ハムスター膵癌を実験モデルとして発癌母地の組織学的変化を浮腫期，萎縮期，線維化期に分けて観察し，初期増殖性病変から腺癌発生に至る過程を経時的に追究したものであるが，ヒトの慢性膵炎と

膵癌の発生機転を実験的に明白にした点，重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。